

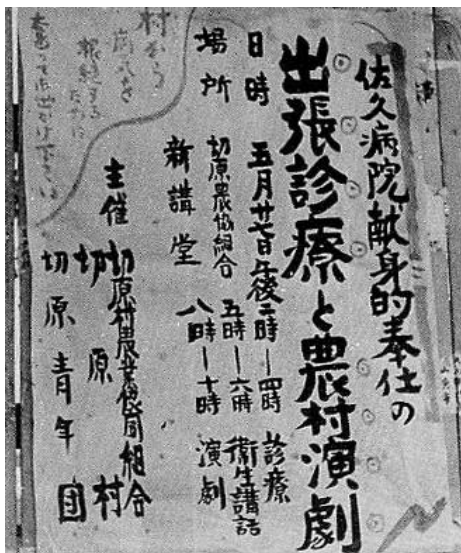


若月俊一

農作業事故を防ぐ自助・共助・公助の連携に向けて 佐久病院の活動から



農夫症の解明と農村医学の追求



無医地区への出張診療



演劇による啓発活動

佐久総合病院名誉院長 夏川 周介

健康管理と予防医療の推進



1947(昭和22)年～
病院祭(衛生展覧会)



1959(昭和34)年～
八千穂村全村健康管理



1962(昭和37)年～
農民体操を考案・普及



1973(昭和48)年～
長野県下集団健康スクリーニング

農村医学の確立と国際展開

- 1947(昭和22)年 長野県農村医学会設立
- 1952(昭和27)年 日本農村医学会設立
- 1969(昭和44)年 第4回国際農村医学会開催
- 1973(昭和48)年 アジア農村医学会設立



第1回日本農村医学会総会(長野市)



第4回国際農村医学会(佐久総合病院)

農村医学的テーマを分類

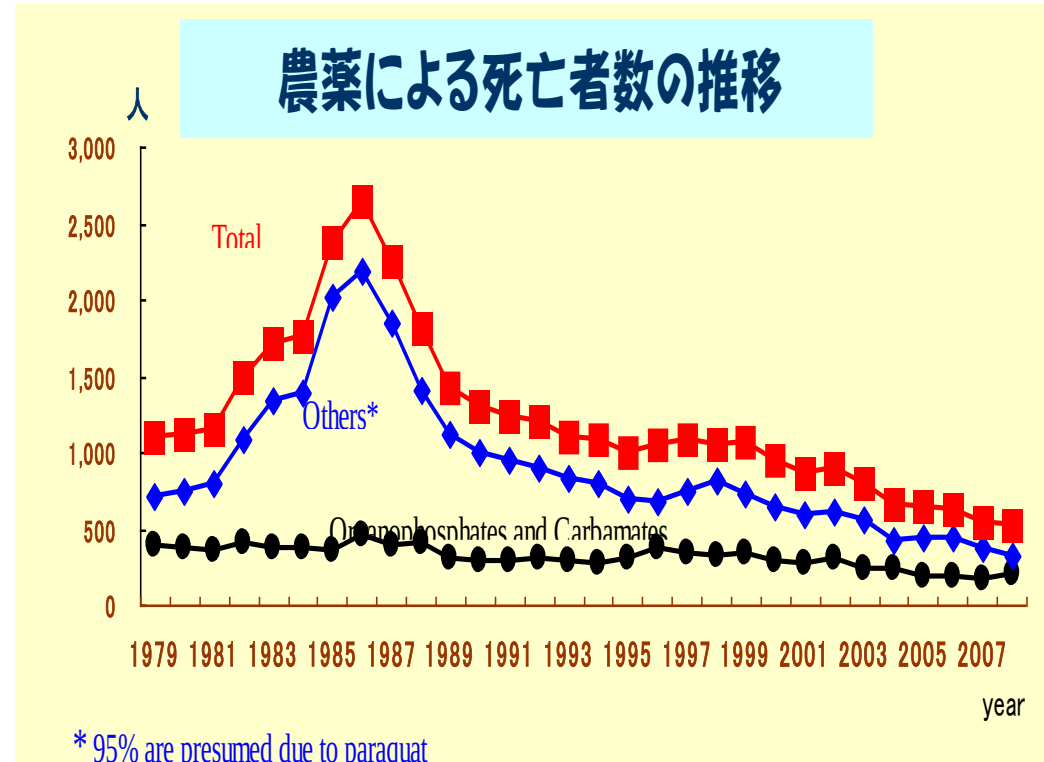
1962年 若月俊一

	社会的病因	農村医学 (狭義)	農村衛生	生活改善
農業的 因子	農作物・ 過労・姿勢・ 農機具事故・ 農薬中毒	接触皮膚炎・ こう手・腰痛症・ 耕運機災害・ ホリボール中毒	家畜伝染病学・ 寄生虫病学・ 農業外傷学・ 農薬中毒学	消毒法・虫下し運 動・機械化・ 応急手当法・ 農薬の救急処置 農業改善
農家的 因子	住居の不衛生・ 不合理な栄養 気がね 年寄り姨捨精神 低い医療費	トラホーム・冷え 欠乏症 農村ノイローゼ 老人病・早老 潜在疾病と手遅	住衣の衛生学 栄養指導 農村社会心理 学・老人病対策 国民健康保険	トイレの改善 食生活の改善 家庭の民主化 老人ホーム 農家経済
農村的 因子	気候・昆虫 部落の迷信 不衛生な環境 無医村的環境	風土病 放ったらかし型 赤痢集団発生 潜在疾病	地方病学 民俗学 環境衛生学 無医地区対策	風土病の研究 憑きもの追放 簡易水道設置 集団健康管理

農薬中毒患者、農作業事故者の増加(昭和30年代～) 日本農村医学研究所を設立(1965(昭和40)年)



日本農村医学会で除草剤（パラコート） の使用規制を決議（1985年）



パラコート(グラモキソン)の誤飲による最初の死亡
事故が佐久病院で発生。救命困難。

パラコートの使用規制の決議を提案する
松下教授(鹿児島大学医学部)

農機具災害研究の取り組み



蜂刺されアナフィラキシーショックへの対応

エピペン(エピネフリン自己注射器)を導入

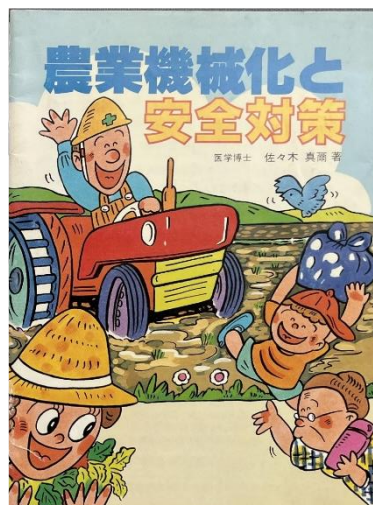
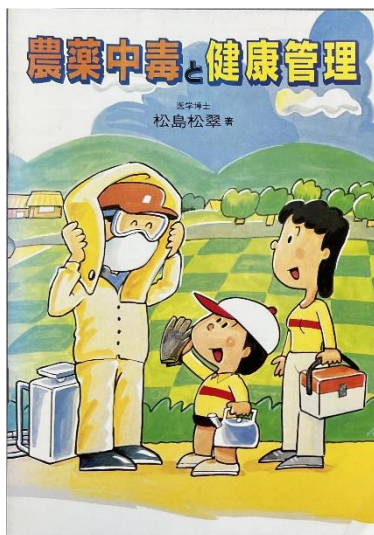


林野庁蜂災害防止対策検討委員会

治験統括医師 佐々木真爾



事故防止啓発用パンフ作成 (36ページ)



1部100円で配布

日本成人病予防会

有機農業の実践(佐久市有機農業研究協議会)

1982年から地元行政の生ごみ堆肥製造センターの肥料を利用し、行政、農協と佐久病院が協議会を設立し、佐久病院の実験農場において有機農業を実践



医師の農業実習



看護学生の農業実習



小学生の農業体験



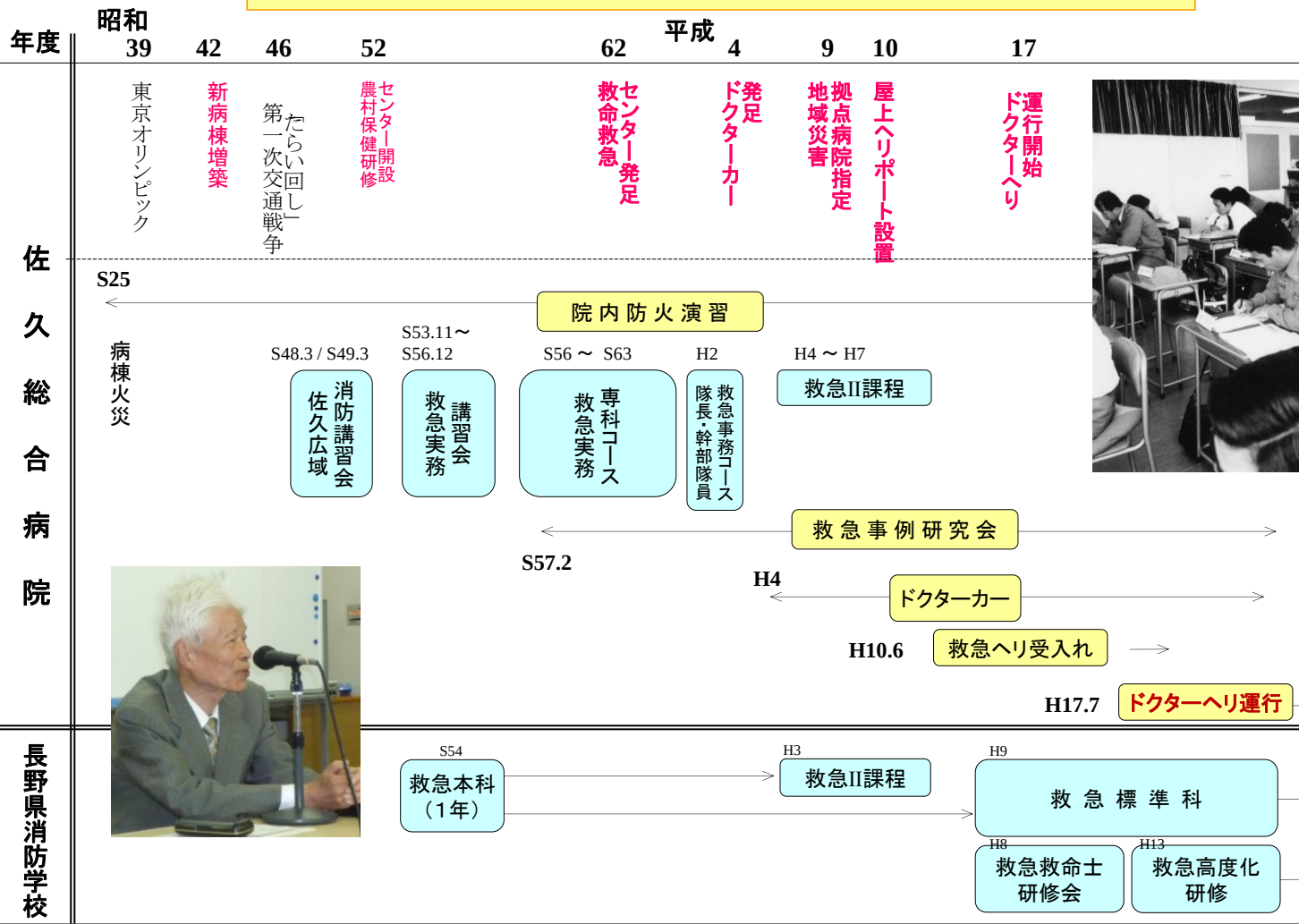
冬の野菜作り(ハウス)



病院玄関横の朝市

佐久病院での救急医療・教育への対応

佐久総合病院における救急医療・教育への対応



信州ドクターヘリが出動した 農作業事故発生地点

期間 2005年7月1日～2010年8月31日

農作業事故177件/全出動件数1577件

佐久総合病院

★ 主な搬送医療機関



50km (15分)

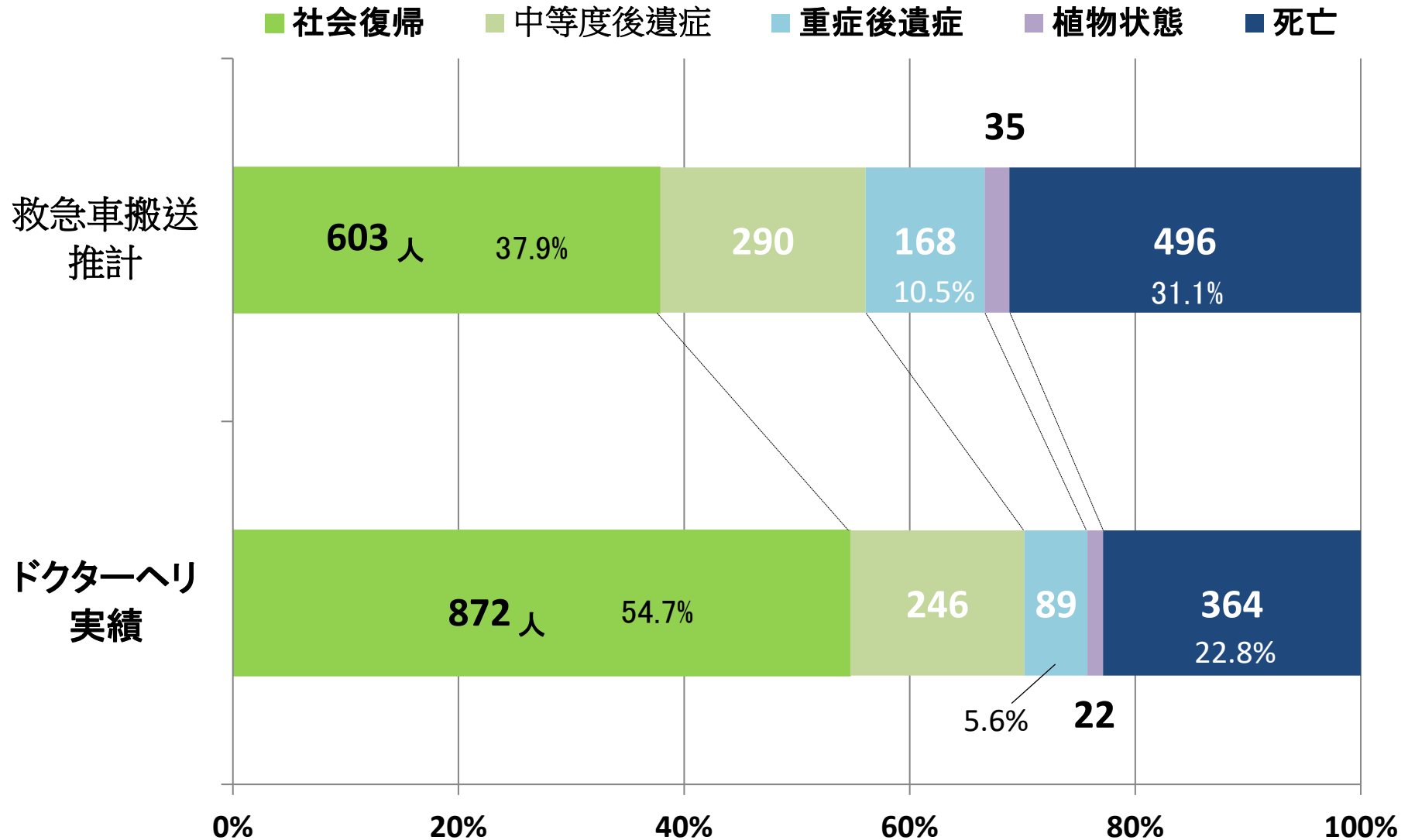
当院から50km圏内が多い

100km (30分)

内円30km (10分)

- 乗用トラクター
- その他の農機具
- その他
- ハチ刺され

ドクターヘリがなかったら



(厚生労働科学研究「ドクターヘリの実績と評価に関する研究」班)